

2022年1月16日～1月22日 各家庭でのディボーション用テキスト

それから彼は基督者の手をとって、非常に大きな広間につれて行ったが、そこは一度も掃除をしたことがないので、ほこりが一杯であった。しばらくそれを見渡した後、解説者は男を呼んで掃除を命じた。さて彼が掃き始めると、ほこりがあたり一面に飛んだので、基督者は息がつまりそうになった。そこで解説者は側に立っていた乙女に水を持って来て、部屋にまきなさいと言った。乙女がそのとおりとすると、気持よく掃き清められた。

そこで基督者は言った、これはどういう意味でしょうか。

解説者は答えた、この広間は福音のさわやかな恵みによって一度も清められたことのない人の心です。ほこりはその原罪であり、内部の腐敗であって、それが彼の全人格を汚してしまっただけです。最初に掃除しか



解説者の家のほこりの広間

けた男は「律法」ですが、水を持って来てまいた乙女は「福音」です。さて、君が見たとおり、初めの男が掃除を始めるとすぐほこりがあたり一面に立ったので彼は部屋を清めることができず、君はそのために息がつまりそうになりました。これは君に次のことを示すためです。すなわち、「律法」は（その働きによって）心を罪から清めないで、罪をあらわにして禁じるとき、かえってそれを魂の中によみがえらせ【ロマ7:6】、力づけ【Iコリ15:56】、増大させる【ロマ5:20】。つまり、律法は罪をおさえつける力を与えるものではない、ということです。

さらにまた君が見たように、乙女が部屋に水をまくと、それは気持よく清められました。これは福音がその美しく貴い感化をもって心に来ると、ちょうど乙女が床に水をまいてほこりをしずめたのを見たように、罪は克服され、魂はその信仰によって清められて、その結果栄光の王がその中に住まわれるのにふさわしくされるのです。【ヨハ15:3、エペ5:26、使15:9、ロマ16:25、26】

その上、私が夢で見ていると、解説者は彼の手を取って、小さな部屋に入れた。そこには二人の小さな子供がめいめい自分の椅子に腰かけていた。年上の方の名は短気児で、今一人の名は忍耐児であった。短気児はひどく不満のように思われたが、忍耐児の方はごく落ちついていた。その時基督者は尋ねた、短気児の不満の理由は何ですか。解説者は答えた、彼らの家庭教師が一番いいものを来年の初めまで待たせようというのですが、彼は今全部欲しいと喋りかかっているのです。しかし忍耐児の方は喜んで待っています。

それから一人の人が短気児のところへ宝の袋を持って来て、その足下にあけるの

を見た。彼はそれを取り上げて大喜びし、同時に忍耐児を笑った。ところがほんの暫く見ているうちに、彼はみんな使い果たして、残ったものはただぼろだけだった。

そのとき基督者は解説者に言った、もっとくわしくこのことを説明して下さい。

そこで解説者は言った、この二人の少年は象徴で、短気児は現世の人を表わし、忍耐児は来世の人を表わします。君がここで見たように、短気児は、今、今年の中に、つまり現世ですべてのものを得ようとし、現世の人もまたそうで、よいものを今全部得なければ承知しません。よいものの分け前をもらうために来年、つまり来世までは待つことができないのです。「手のうちにある一羽の鳥はやぶの中の二羽に相当する」というあのことわざは、彼らにとっては来世のよいものについての神のあらゆる証言よりも権威があるのです。だが君が見たように早くもすっかり使い果たして、やがて残っているものといっちはただぼろだけになってしまいました。この世の終りには、このような人は皆そうなるのです。

そのとき基督者が言った、今こそ分かりました。忍耐児が最も優れた知恵を持っていることが。それには多くの理由があります。第一に、彼は最もよいものを持つこと、第二に相手がただぼろしかないときに、彼は自分の栄光を持とうとしていることです。

解説者 いや、君はもう一つつけ加えることができます。つまり、来世の栄光は決して尽きることがないということです。しかしこの世のものはたちまちなくなってしまいます。ですから短気児は自分がよいものを最初に得たからといって、忍耐児を笑う理由はないのです。そうすると忍耐児は最もよいものを最後に得たと言って短気児を笑わなくてはならないでしょう。最初のもは最後のものに席をゆずらねばなりません。しかし、最後のもは後をつぐものがないので、何ものにも席をゆずりません。ですから、最初に自分の分け前を得るものはそれを費す時をどうしても持たねばなりません、最後にその分け前を持つものは、それをいつまでも持っています。それ故ダイヴィーズ（金持）については次のように言われました、**【ルカ 16：25】** あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦しみもだえていると。

基督者 それで分かりました、今ある物を欲しからず、来たるべきものを待つのが一番いいことです。

解説者 君の言われることは真理です。**【Ⅱコリ 4：18】**「見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである」ですからね。ですが、これがそうだとすると、現在のもとの、われわれの肉欲とは互いに親しい隣どうしであり、さらに、来たるべきものと肉の思いとは互いに見知らぬものであって、そのため、前の二つはたちまち仲よしになり、あとの二つには疎遠がつづくのです。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。